

氏名	中村 和恵
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6245 号
学位授与の日付	2020年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Exclusively Breastfeeding Modifies the Adverse Association of Late Preterm Birth and Gastrointestinal Infection: A Nationwide Birth Cohort Study (母乳栄養は後期早産児の消化管感染症における有害作用を修飾する：日本における大規模出生コホート研究)
論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 増山 寿 准教授 久松隆史

#### 学位論文内容の要旨

後期早産児 (Late preterm infant、以下 LPI) は、正期産児(Term infant、以下 TI) よりも疾病や発達遅延のリスクが高いことが知られているが、早産児の中に占める割合が大きく、その予後には注目が集まっている。しかし、LPI の乳幼児期早期の罹病のリスクと感染防御に恩恵をもたらすとされる母乳栄養の効果修飾についての研究はほとんどないため、今回検討を行った。対象は、21 世紀出生児縦断研究に登録された在胎期間 34 週から 41 週で出生した 37977 名 (TI: 36322 名、LPI: 1655 名)。LPI と TI について、生後 18 か月までの入院の割合を比較し、ロジスティック回帰分析で調整オッズ比を推定した。その結果、LPI は、全入院および呼吸器・消化管感染症で入院するリスクが TI より高かった。また、消化管感染症のために入院するオッズ比は、母乳栄養のみの TI を対照とすると、母乳栄養のみの LPI では増加が見られなかった。つまり、LPI は TI よりも生後 18 か月までに入院するリスクが高く、母乳栄養が LPI の消化管感染症による入院を減らす可能性が示唆された。

#### 論文審査結果の要旨

後期早産児(Late preterm infant、以下 LPI)は、正期産児 (Term infant、以下 TI) よりも疾病や発達遅延のリスクが高いと言われている。LPI の早産児の中に占める割合は大きく、その機能予後に注目が集まっている。現時点では、LPI の乳幼児期早期の罹病リスクと、感染防御に恩恵をもたらすとされる母乳栄養の効果修飾についての研究結果はほとんど見当たらない。

対象は、21 世紀出生児縦断研究に登録された、在胎期間満 34 週から満 41 週までで出生した 37, 977 名 (TI: 36, 322 名、LPI: 1, 655 名) である。TI と LPI について、生後 6 か月から生後 18 か月までの入院の割合を比較して、ロジスティック回帰分析にて調整オッズ比を推定した。栄養方法については、生後 6 か月までの情報に基づいて分類した。

今回の解析の結果、LPI では、全入院、および、呼吸器感染症または消化管感染症の理由で入院するリスクが TI よりも高いことが示された。また、消化管感染症のために入院するオッズ比は、母乳栄養のみの TI を対照とすると、母乳栄養のみの LPI では増加が見られなかった。すなわち、LPI は TI よりも生後 6 か月から生後 18 か月までに入院するリスクが高く、母乳栄養が LPI の消化管感染症による入院を減らす可能性が示唆された。

本研究の結果によって、TI に比して、LPI の生後 6 か月から生後 18 か月までの入院リスクが高いこと、母乳栄養が LPI の消化管感染症による入院リスクを減らすことが示唆された。これらは重要な知見であり、価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は、博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。